C. 小児科(指導責任者 梶田 光春)

将来いずれの診療科を専門にするかにかかわらず、小児疾患のプライマリケアを行いうるための 基本的な知識と技術を習得し、到達目標 A 基本的価値観および到着目標 B 資質・能力を身に付 け、到達目標 C 基本的診療業務ができるようにする。(1 年目は必須、2 年目は選択科となるが、 2 年間従事する救急外来においては小児疾患の頻度が多い。疾患の季節差を考慮し、2 年目にも 選択して、夏と冬に各々1か月の研修を行うことが望ましい。)

【具体的行動目標】

- 1. 一般的診療技術および知識
- A) 小児の診療に必要な小児の特性を理解する。
 - 1) 小児は発育・発達の途上にあることを認識し、正常な身体発育、精神発達の概要を理解し、明らかな発育・発達の異常を指摘できる。
 - 2) 小児に不安を与えないように、年齢に応じた対応ができる。
 - 3) 保護者から、発病の状況、症状の経過、成長発達歴、予防接種歴などを要領良く聴取し、 的確な記載ができる。
- B) 小児に対する基本的な診療技術を体得し、重要な小児疾患については診断治療の概要を理解 する。
 - 1) 栄養状態、意識状態、活動性、脱水や呼吸障害の有無などの全身状態を把握できる。
 - 2) 咽頭、胸部、腹部などの局所理学的所見を的確に把握し、正確な用語で記載できる。
 - 3) 小児科外来で日常遭遇することの多い急性上気道炎、急性胃腸炎などの診療と保護者への的確な指導ができる。
 - 4) 突発性発疹、麻疹、風疹、溶連菌感染症、水痘などの発疹症の鑑別ができるようにする。
 - 5) 入院治療を要する比較的高頻度または重要な小児疾患の診断と治療の概要を理解する。 肺炎・気管支炎、急性虫垂炎、急性腎炎、川崎病など。
 - 6) 小児保健に関する知識を深め、乳幼児健診・予防接種などを経験する。
- C) 小児の初期救急治療ができるようにする。
 - 1) 一般救急患者の一次医療を行い、その中で二次医療を要する状態かどうかの判断ができるようにする。
 - 2) 脱水症に対して輸液が必要かどうか判断し、血管確保および適切な輸液の指示ができる。
 - 3) 呼吸障害やチアノーゼの有無を正しく把握し、救急蘇生を要するかどうかすばやく判断することができる。
 - 4) 気道確保・Bag and Mask による人工換気・胸骨圧迫式の心マッサージを行うことができる。
 - 5) 気管支喘息発作の応急処置ができる。
 - 6) 熱性痙攣の特徴を理解し、髄膜炎や脳炎のような重篤な中枢神経疾患の恐れがないかどうか判断することができる。
 - 7) 痙攣中の小児に対して、抗痙攣剤の投与を含めた救急処置ができる。
 - 8) 腹痛・嘔吐などの消化器症状の強い患者について、腹部所見を正しくとり、緊急性のある疾患を指摘できる。

- 9) 腸重積症を診断し、空気または高圧バリウム浣腸による整復を行うことができる。
- 10) 異物誤飲に対して胃洗浄などの適切な処置ができる。

2. 習得すべき検査手技

- 1) 一般小児の静脈採血ができる。
- 2) 指導医の元で腰椎穿刺および骨髄穿刺ができる。
- 3) 年齢に応じたマンシェットを選択し、正しく血圧測定ができる。
- 4) 胸部単純X線写真で肺炎、胸水の貯留、無気肺、肺気腫、気胸の所見を指摘できる。
- 5) 腹部単純X線写真で消化管ガス像の所見を述べることができる。
- 6) 自ら心電計を操作して心電図をとることができる。

3. 治療法と治療手段

- 1) 小児の年齢別薬用量を理解し、それに基づき一般薬剤を処方できる。
- 2) 乳幼児に対する薬剤の服用法、使用法について、保護者への指導ができる。
- 3) 年齢、疾患、状態などに応じて適切な輸液の種類と量を指示することができる。
- 4) 新生児を除く一般小児の血管(静脈)確保ができる。
- 5) その意味や危険を理解したうえで、静脈内、皮下および筋肉注射ができる。
- 4. 副主治医として、指導医の下で外来および入院患者に対して主体的に診療に取り組み、その疾患、診断・治療の概要を理解することが必要である小児疾患
 - 経験すべき症候:下記の頻度の高い小児の症状を経験し、レポートを提出 発熱、発疹、けいれん発作、呼吸困難、嘔気・嘔吐、便通異常(下痢・便秘)、 腹痛、成長・発達の障害
 - 経験すべき疾病・病態:A症例レポート提出、B受け持ちとして経験
 - 1) 先天性疾患 ダウン症候群など染色体異常症、先天代謝異常症など
 - 2) B 新生児・未熟児疾患 低出生体重児、新生児一過性多呼吸、新生児黄疸、初期嘔吐、 新生児メレナ、先天性消化管閉鎖症など
 - 3) A 呼吸器疾患 肺炎、細気管支炎、クループ、急性扁桃炎など
 - 4) B 循環器疾患 心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、ファロー四徴症、不整脈、 急性心不全など
 - 5) B 消化器疾患 急性胃腸炎、周期性嘔吐症、肥厚性幽門狭窄症、急性虫垂炎、 腸重積症、ウィルス性肝炎、急性膵炎など
 - 6) B 腎泌尿器疾患 尿路感染症、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、 紫斑病性腎炎、急性腎不全、など
 - 7) A 神経疾患 熱性痙攣、てんかん、脳性麻痺、髄膜炎、脳炎・脳症、脳腫瘍など
 - 8) 精神疾患 神経性食思不振症、心身症、不登校など
 - 9) 運動器疾患 重症筋無力症、進行性筋ジストロフィーなど
 - 10) B内分泌疾患 成長ホルモン分泌不全性低身長症、バセドウ病、 甲状腺機能低下症など

- 11) 代謝疾患・栄養障害 糖尿病、低血糖症、高脂血症、肥満症など
- 12) B 免疫・アレルギー疾患 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、 消化管アレルギー、先天性免疫不全症など
- 13) B 感染症 敗血症、百日咳、溶連菌感染症、ブドウ球菌感染症、麻疹、風疹、水痘、 突発性発疹、流行性耳下腺炎、伝染性単核症、伝染性紅斑、単純ヘルペス感染症、結核 など
- 14) B 膠原病とその周辺疾患 川崎病、IgA 血管炎、若年性特発性関節炎など
- 15) B血液疾患 鉄欠乏性貧血、血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血など
- 16) 腫瘍性疾患 白血病、神経芽細胞腫、悪性リンパ腫など
- 17) B事故・中毒 異物誤飲・誤食、気道異物・窒息、薬物中毒、溺水、熱中症など
- 18) その他 SIDS、被虐待児症候群など

【方略: LS】研修指導体制と週間スケジュール

- 1) オリエンテーション 第1日目 8:30より 5C病棟にて
- 2) 病棟実習
 - ・入院に関わった患者を副主治医として受け持ち、退院サマリーを作成する。
 - ・担当患者の診察は毎日行い、診療内容をカルテに SOAP で記載する。
 - 診療およびカルテ記載内容について、指導医のチェックを受け討論する。
 - ・診療手技をできる限り自ら行う。
 - 朝の入院患者カンファレンスの際に前日回診患者の症例呈示を行う。
- 3) 外来実習
 - 新患、初診、紹介患者を副主治医として診察する。
 - ・予防接種、乳児健診を見学し、指導医のもとに実施する。
 - ・専門外来を見学する。
 - ・小児救急患者の診療を行う。
- 4)新生児、未熟児実習
 - ・産科(5D)病棟において正常新生児の診察を行い、所見をカルテに記載する。
 - ・新生児・未熟児の入院患者を副主治医として受け持つ。
- 5) 朝の抄読会において小児科関連の英文テキストを訳す。
- 6) 学会発表、論文発表を行う。
 - ・地域小児科医会症例検討会へ参加し、症例を呈示する。
 - 小児科学会東海地方会などの学会で発表する。
 - ・学会等で発表した内容を論文にまとめる。

【週間スケジュール】

1年次

	月	火	水	木	金
早朝	症例検討	抄読会	症例検討	抄読会	症例検討
午前	病棟回診/ 一般外来	病棟回診	一般外来	病棟回診	一般外来
午後	アレルギー外来	紹介患者/救急外来	予防接種	紹介患者/ 救急外来	腎臓外来/ 循環器外来
夕刻		振り返り			

2年次

	月	火	水	木	金
早朝	症例検討	抄読会	症例検討	抄読会	症例検討
午前	病棟回診	一般外来	病棟回診	一般外来	病棟回診
午後	紹介患者/	乳児健診/	紹介患者/	予防接種	紹介患者/
	救急外来	神経外来	救急外来	700按性	救急外来
夕刻		振り返り			

【評価】

自己評価後、指導医の評価を受け、評価システム PG-EPOC を利用して臨床研修委員会に 提出する。

知識・手技		経験数		評価				717574
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	目標			十分	不十分			
病歴聴取•身体所見	100		例					
小児検査値の評価	50		例					
小児薬用量の理解	50		例					
静脈採血	10		例					
血管確保	20		例					
腰椎穿刺•骨髓穿刺	2		例					
胸部·腹部X線像	30		例					
心電図・心臓超音波	20		例					
CT像、MR像	20		例					
胃洗浄	1		例					
経験すべき主な症状				完ぺき	後少し	知識だけ	まだまだ	レポート 提出
発熱	40		例					
発疹	10		例					
痙攣	10		例					
喘鳴	10		例					
嘔吐	10		例					
下痢	10		例					
腹痛	10		例					
経験すべき主な病態								
各種学校伝染病	10		例					
肺炎	10		例					
クループ	2		例					
細気管支炎	2		例					
急性扁桃炎	5		例					
気管支喘息	5		例					
てんかん	1		例					
熱性痙攣	3		例					
急性胃腸炎	10		例					
腸重積症	1		例					
急性虫垂炎	1		例					
アセトン血性嘔吐症	1		例					
アレルギー性紫斑病	1		例					
川崎病	1		例					
急性糸球体腎炎	1		例					
ネフローゼ症候群	1		例					